

三者面談

すべての保護者は、よい子に育てたいという思いをもちながらも、一方では成長に伴って様々な不安を抱えているものです。教師は、保護者とコミュニケーションの充実を図りながら信頼関係を確立し、ともに子どもを育てる姿勢を示す必要があります。この前提に立って、三者面談では、子どもの考えや保護者の考えを大切に受け止め、よりよく育っていくための方向性を明らかにしていくことが求められます。

ここでは、聞き取り調査をもとに三者面談の方法を4つのポイントに分け、それぞれに対応したスキルを紹介しています。また、次ページから聞き取りしたスキルの具体例を見ることができるようになっています。

ポイントとスキル

ポイント	スキル
■ 十分な事前準備	<ul style="list-style-type: none">○ 親の考えを知っておく○ 子どもの考えを知っておく○ わかりやすい資料を提示する
■ 保護者や子どもの考え重視	<ul style="list-style-type: none">○ 共感的に聴く○ 聴く時間を確保する○ 保護者の考えを引き出す○ 話の内容を整理する
■ 積極的な支援	<ul style="list-style-type: none">○ 課題を明確にする○ 連携・協力を求める○ 励ましの方法をアドバイスする
■ その他	<ul style="list-style-type: none">○ 言葉遣い、礼儀○ 雰囲気づくり

三者面談

スキルの具体例

■ 十分な事前準備

◆親の考えを知っておく

- ・事前連絡により懇談の内容を知らせることで、保護者が話す内容や聞きたい点を考えておいてもらうようにする。 (小 30 女)
- ・事前の調査により親の考えをきちんととらえておき、わかりやすく言い換えるなどして子どもに伝えることを心がける。 (中 50 男)
- ・ケースによっては、学校と保護者が、子どもの問題解決について同じ指摘をするように連携をする。 (小 40 女)
- ・保護者の考えについて子どもを通してアンケートあるいは口頭である程度把握しておき、それでもなおわからない内容があった場合には電話連絡する。 (中 40 男)

◆子どもの考えを知っておく

- ・事前に子どもとの二者面談をし、思いや考えを聞いたりその内容について保護者とどの程度話しているかを確認したりして、懇談時の話の展開を予測しておく。 (中 40 男)
- ・子どもとの二者面談の内容を踏まえて、子どもが保護者に対して言いにくいことを場合によっては代弁する。 (中 30 女)
- ・家庭の事情に触れる話題については取捨選択して取り上げるようにし、問題解決に向けて今後の方向付けができるようなアドバイスを心がける。 (中 40 女)

◆わかりやすい資料を提示する

- ・学校での学習の成果がわかるもの（ノート、提出物、日課表など）の中から必要な部分をピックアップして、当日の資料として提示する。 (高 20 女)
- ・提示するデータや資料が複数枚にわたる場合には、できるだけ1枚のシートにまとめるなどしてわかりやすい形で提示する。 (高 20 女)
- ・学年のはじめに進路に関する日程を伝えるとともに、学校での指導内容や子どもの状況を定期的に知らせるように心がける。 (中 30 女、中 50 男)
- ・親が知りたい情報を的確にキャッチした上で、その内容に関する資料を多く集めわかりやすく説明できるよう準備する。 (小 40 女)
- ・進路に関しては子どもと保護者が最終決定をしなければならない。そのためのアドバイスについては、具体的なデータを見せながらわかりやすく説明する。 (中 40 女、中 50 男)

■ 保護者や子どもの考え重視

◆ 共感的に聴く

- ・保護者の話を聴きながら頷いたり相づちを打ったりして、子どもの指導に対しての不安を全面的に受け止めるようにする。 (中 30 女)
- ・学校で子どもが努力し向上している点を話した上で、「家でも変わったでしょう」と保護者に投げかけ、家庭でのがんばりについて話してもらう。 (小 40 女)
- ・様子を聴いたり情報を与えたりといった内容のみのやりとりだけでなく、子どもと保護者の気持ちを酌み取って話をする。 (中 50 男)

◆ 聴く時間を確保する

- ・面談では保護者や子どもの意見を聴くことが主な内容となるので、教師は提供する情報を整理して要領よく伝えるようにし、聴き役に徹することを心がける。 (高 30 男、高 40 男)
- ・予定した内容について決められた時間の中で面談を終えることが望ましいが、じっくり話す必要が生じた場合には、時間を延長せず後日時間をとる。 (小 30 女、中 50 女)
- ・保護者とだけ話すべき内容がある場合には、その場で話さず後日時間を作るか又は家庭訪問を設定し二者面談を行う。 (高 20 女)

◆ 保護者の考えを引き出す

- ・子どもの思いを教師が代弁して保護者に提示し、そのことに関する保護者の考えを聴くことで子どもへの指導方針が明らかになり、連携を図る糸口が見いだせる。 (中 40 女)
- ・生徒指導に関する内容を話題にするときには、事前に子どもとの話に十分時間をかけた上で保護者との面談に臨むようにする。 (中 40 男、高 30 男)

◆ 話の内容を整理する

- ・保護者と子どものそれぞれの考えを尊重するとともに、方向性を持たせた話の展開の中で、双方の共通点を引き出すように心がける。 (中 30 男、中 40 男、高 30 男)
- ・学校での勉強や生活の話題については、まず子どもに自分の考えを発言させ、家庭とかわかる部分について保護者に発言を求めるようにする。 (中 40 男)
- ・子どもと保護者に考えの食い違いがあり、面談で解決の方向性が見いだせない場合は、問題点を明らかにした上で、当日来校していない家族を含めて家庭で再度話をしてもらうよう促す。 (中 50 男)

■ 積極的な支援

◆課題を明確にする

- ・子どもの学校生活を改善するために情報を与えるときには、伝える分量や割合を考慮する必要がある。よいところを6～7割、課題を3～4割話すように心がける。
(中50女、高30男)
- ・最初に、今学期に努力した点やその結果伸びた面を示し子どもの成長を認める。その後、さらに成長を促すため課題として取り組むべき内容について話題にする。
(小30女、中40男)
- ・データ等を示して課題を指摘するだけでは解決にならない。学校での指導予定を話すとともに、家庭で取り組むべき内容について具体的に提示することが大切である。
(小30女、小40女)

◆連携・協力を求める

- ・子どもが悩んでいる解決すべき課題について、保護者の考えを聴く。その後、学校の指導方針を伝え、子どものよりよい成長を願って連携・協力の依頼をする。
(小30女、中50男)
- ・学力の向上を図るためには、学校と家庭の協力が必要であることを強調する。音読、漢字練習など、家族の協力で達成できる家庭学習について具体的に提示する。(小40女)
- ・日頃から、学校での子どもの様子や保護者へのメッセージを発信するように努め、教師や学校に対して不安感を抱かせないようにする。そのことが、積極的な連携・協力を促すことにつながる。
(小40男)
- ・子どもの教育に対して責任を持つべき保護者としての親の立場、子どもの成長に関して全面的に支援する教師としての立場を明らかにして連携を依頼する。
(中50男)

◆励ましの方法をアドバイスする

- ・義務教育の期間は心身ともに成長が著しいときであるので、その都度の学校の教育方針を示すとともに、子どもの成長に応じた保護者のかかわりが必要であることを伝えることが大切である。
(高40女)
- ・子どもの行動や学習について、「ここはできなかったけどやる気があるね」など、結果よりも取り組んだ過程をほめるようアドバイスする。
(小40男)
- ・通知表の見方として、課題だけでなく努力した点や成果が上がった点にも着目することを願う。叱ることより褒めることの大切さを伝えるようにする。
(小40男)

■ その他

◆言葉遣い、礼儀

- ・話しを聴くのにちょうどよい距離や座り方を考え、明るい雰囲気ですすように心がける。
(小40女)
- ・必要以上に家庭の問題に踏み込まないよう留意する。保護者から話し出されたことについても、予定と関係のない内容であれば、別の機会にさせていただくよう丁寧にする。
(高40女)
- ・挨拶、来校のお礼はきちんとし、笑顔で迎えることで緊張をほぐすようにする。
(小40男、高40女)

◆雰囲気づくり

- ・課題のある子どもに対する面談では、不十分な点を指摘するだけで終わらないように留意する。解決の方向性を示し、最後に安心感を与える言葉でしめくくるようにする。
(高30男)
- ・学校行事や最近出した通信の内容などを取り上げながら、子どもの学校生活でのがんばりを導入として話し、雰囲気を和らげるようにする。
(高40男、高40女)